

# 公益財団法人日米医学医療交流財団 留学助成

## 研修報告書 (2018年度 助成者)

作成日 2018年 8月 20日

氏名 (フリガナ)	伊吹優里 (イブキユリ)
研修先機関名	Hawaii Tokai International College
研修期間	2018年8月13日 (月) ~ 8月18日 (土)
大学名	愛媛大学
学年	5年
<p>今回研修に参加させていただき、想像していたよりも遥かに充実したプログラムを通じて多くの先生、医学生との素敵な出会いを経験でき参加して良かったと心から思っています。</p> <p>英語での <b>case presentation</b> は初めてであり、英語の <b>speaking</b> に私はあまり自信がなく参加にあたっては不安な気持ちもありました。しかし、他の参加者と励まし合い楽しみながらの5日間でしたので、プログラムに積極的に参加し少しでも実力を伸ばそうという気持ちで取り組むことができました。</p> <p>研修プログラムを通じて最も印象に残ったのは、3日間にわたり行われた <b>history taking</b> と <b>case presentation</b> の実践的な練習です。病歴を聴取し、鑑別診断や治療法を考えコンパクトにまとめてプレゼンをするのは、初めは難しく感じました。<b>case presentation</b> の型をしっかりと身につけられるよう講義と反復練習が組み立てられており、日を追うごとに慣れていくのがわかりました。先生に1対1でプレゼンをし、フィードバックしていただけるため改善点が明確になり、短期間で効率良く学べる素晴らしいプログラムでした。</p> <p>また、ハワイ大学の医学生と交流し、考え方や学ぶ姿勢に触れたこともとても良い経験になりました。彼らが患者役となり <b>history taking</b> を行いましたが、日本の医学生との交流を楽しんで下さっているように感じられ、和やかな雰囲気でした。</p> <p>聞き漏らした情報がないか、どのような質問の仕方をするより良いかなど熱心にフィードバックをしていただき、大変嬉しく思いました。日本の医学部と異なりハワイ大学医学部では系統講義がほとんどなく、臨床推論等、より臨床に即した内容を少人数のグループでディスカッションをしながら学んでいるということや、見学よりも参加が重視される臨床実習の様子を伺い、日本と比較して <b>active learning</b> が根付いている印象を受けました。</p> <p>私は将来臨床留学をしたいと漠然と考えていましたが、海外の医療現場の具体的なイメージや目標に至るための道筋は描けていなかったように思います。今回の研修ではハワイの病院、クリニックの見学のみならず、日本の医学部を卒業されハワイで医師として働いている先生方とお話しする機会をいただけたことは、私にとって刺激になり自分の目指す医師像について真剣に考えるきっかけとなりました。</p> <p>また、私の周囲で医学英語や臨床留学に関心を持っている学生はごく一部であり、全国から集まった海外に興味を持つ医学生と知り合い情報交換ができたことは非常に有意義でした。5日間しか一緒に過ごしていないとは思えないほどの一体感が生まれ心に残る思い出が多くできました。参加者の中にはアメリカでレジデントとして働きたいという強い意志とそれに見合う英語力、医学知識を備えた方もおられ、とても同学年とは思えず良い刺激になりました。</p> <p>研修プログラムを通じて、<b>case presentation</b> の型を身につけることができただけでなく、視野が広がり医学英語に対するモチベーションも向上したように思います。</p> <p>最後になりましたが、このような充実した素晴らしい研修ができるよう指導、サポートしてくださったすべてのみなさまに感謝申し上げます。この経験をこれからの臨床実習や将来医師になった時、活かせるよう日々努力していきたいと思っております。</p>	